



左沢高校剣道部員は現在3年生まで含むわざわざ9名。他に中学生が練習に加わっている。  
現在は斎藤監督、畠崎宗也部長、佐久間陽子助監督という体制

戦も含めればその年から今までインターハイに続けて出ていることになります。寒河江のときに、どのくらいの技術レベルに持つていてどのくらいの構え、構えをした選手に育てると勝てるかが分かっていませんからね。あとは能力のある子が来るかどうかでした。

昭和58年に3回目の出場で決勝まで行つて野津に負けたけど、その時のメンバー5人のうち高校から始めたのが4人でした。先鋒は中学のときソフトボール部、次鋒はバスケット部で後に全日本女子選手権で優勝する近藤洋子です。中堅はバレー、副将だけが経験者だったけど1年生。大将もバレー。近藤は剣道を始めて1年3ヶ月でインターハイ準優勝です。ソフトボールは両手でバットを扱うからいいんでしょうね。寒河江高校のときにソフトボール経験者を2年生でインターハイ個人戦に出したことがあった。57年に左沢高校で県チャンピオンになつた子もそうでした。

近藤洋子は今までの歴史の中でスクワット時間が1番短かった。入学式が終わつた次の日ぐらいに職員室に呼んで話をしましたが、陸上は早いし、水泳もすごい。体育は3年間成績が5。なぜバスケットが強いところに行かなかつたのかと聞いたら、地元から通える高校にと思ったという。「剣道をやつてみないか」と言うと「やつたことないですか」「先輩もみんなやつたことないから大丈夫。剣道をすれば絶対インターハイに連れていく。絶対

約束できる。お前みたいに運動能力あつたら間違いない……」そんな話を20分ぐらいしたら、「分かりました、入ります」。

今もそうだけど、中学生をスカウトしても、ぐずぐず言つてなかなか決められない子は、入つてきてから活躍できない。「はい行きます、頑張ります」と早く結論を出した子の方が活躍しますね。

佐久間(陽子)先生なんかは、私は全然スカウトした覚えはない。中学1、2年のときから、合宿があると、「中学の練習がないなら来なさい」って誘つて、中学生3年のときは「遠征行くぞ」とつて連れて行つて……。全中は2年生のときには先輩が強かつたから出ただけです。村上千夏は小学校5年生のときから将来すごい選手になるぞと思つて見ていきましたが、全中には1回も出でていません。今のうちのメンバーもそうです。全中に出たのは1人しかいない。千夏も、佐久間も、もし新潟に残つてたら、福島に残つてたら、北信越大会も3位。副将の斎藤由紀は中学時代から左沢の寮に来て生活していた子。大将の後藤友見子も全中は出ていました。この代は山形四中が強くて全中で3位になつていています。私もスカウトしたけど、山形中央高に4人そつくり行つた。だけど1年生大会からうちには一回も勝てなかつた。勝たせなかつたんですけどね。このときは三冠だけではなくて、平成3年の石川国体から4大会連続で全国制覇をしていました。石川国体のときは、先鋒だけ3年生で後ろ4人が2年生だった。私はこんなことを言つたんです。

「来年は山形国体だ、山形ではお前たちで絶対勝つ。でも来年勝つても地元だから勝つたって言われる。今年石川で勝つて、4人残つて来年も勝てばこれは実力だつてみんなが言う。だから石川で勝つておけ」

それで勝つことができました。指導者はいかに「選手の魂を揺さぶる言葉」を持っているかだと思う。ありきたりのことを言つてもだめです。

平成元年に、その年から設置された国体少年女子の部で(単独校チームで)優勝したのが左沢としては初の全国制覇でした。その年の夏のインターハイで負けた後、新潟県の村上市にある東林寺という寺の和尚さんと会つて話を聞く機会があつたのですが、「日本一になれなくて悩んでいます、苦労しています」とその和尚さんが「日本一になりたいつ

ところが、左沢に行つてみたら驚いた。ところが、左沢に行けると思つた。

「お前たちと一緒に日本一になりたい」

平成4年の三冠の時はもう全員経験者でした。このときも全中で活躍した子はない。先鋒の清野志津佳は中学2年の時に先輩が強かつたから全中に出たが、次鋒の佐藤加奈子は3年のとき県大会も

昭和45年の4月に寒河江高校に赴任して、6月には県で勝たせてインターハイに連れていくことができました。インターハイ女子団体は昭和44年に始まり、44、45年と八代東高校が、46、47年は鹿児島高校が優勝。寒河江は47年に地元として翌年に三重の尾鷲で行なわれた大会で優勝したんです。

47年の大会、決勝で鵜狩(賢省)先生の鹿児島と対戦し、野津高校の斎藤清内先生と会つたあたりから、九州へ指導を乞いに行くようになりました。鹿児島までは行かなかつたけど、大学の先輩でもある清内先生のところとか、福岡の南筑高校にお世話になりました。

もちろん当時山形から九州に遠征に行くチームなんて他にない。寒河江高校は伝統のある学校で、私が行く前にインターハイに2回、国体に1回(当時は単独校で出場)出ていました。OB会の組織がしっかりとしていて、赴任した年から、勝たせるために使つて年間100万円もらつた。今で言えば500万ぐらいかな。

しかし、7年で寒河江高校を出ることになった。それは当時の校長の次男が剣道部を退部した問題があつて校長に出されたんだと思うが、真相は分かりません。ちょうどその年、寒河江時代の最初の2年間、顧問と副顧問という関係で剣道部

47年の大会、決勝で鵜狩(賢省)先生の鹿児島と対戦し、野津高校の斎藤清内先生と会つたあたりから、九州へ指導を乞いに行くようになりました。鹿児島までは行かなかつたけど、大学の先輩でもある清内先生のところとか、福岡の南筑高校にお世話になりました。

もちろん当時山形から九州に遠征に行くチームなんて他にない。寒河江高校は伝統のある学校で、私が行く前にインターハイに2回、国体に1回(当時は単独校で出場)出ていました。OB会の組織がしっかりと置いていて、赴任した年から、勝たせるために使つて年間100万円もらつた。今で言えば500万ぐらいかな。

## 剣道部員が次々に退部

47年の大会、決勝で鵜狩(賢省)先生の鹿児島と対戦し、野津高校の斎藤清内先生と会つたあたりから、九州へ指導を乞いに行くようになりました。鹿児島までは行かなかつたけど、大学の先輩でもある清内先生のところとか、福岡の南筑高校にお世話になりました。

もちろん当時山形から九州に遠征に行くチームなんて他にない。寒河江高校は伝統のある学校で、私が行く前にインターハイに2回、国体に1回(当時は単独校で出場)出ていました。OB会の組織がしっかりと置いていて、赴任した年から、勝たせるために使つて年間100万円もらつた。今で言えば500万ぐらいかな。

ところがまた1年後にはたつた1人しか残らなかつたんです。でも、実績はないんだけど中学での経験者が3人入つてくれた。だからまた未経験者を入れれば何とかなるなと思って、その何とかなると思った3年目、昭和54年に県大会の決勝まで行つた。そして翌年に決勝で勝つてインターハイ初出場を果たしたんです。

56年も続けて出ましたが、57年に酒田商業(現酒田光陵)にアベック優勝を許してしまつた。58年にはまた出場して、それから平成23年まで28年連続出場。昭和54年に個人戦に連れていったから、個人

を一緒に見ていた先生が左沢高校の校長になり、私を拾つてくれました。左沢もそれまで男子が県でベスト4、女子がベスト8ぐらいになつていてチームだから、1年目は無理でも2年目はインターハイに行けると思つた。

ところが、左沢に行つてみたら驚いた。劍道部員がほとんど辞めてしまつていたんです。3月25日頃、新聞に人事異動の辞令が載りますよね。それで私が来るといふのを見た左沢の子どもたちが次の日に退部した。女子は12人、男子は8人ぐらいたのかな。それが女の子は誰もいなくてマネージャーだけ、男子は6人だけ残つていた。そのぐらい、隣の学校から見ついて恐い先生だつたんですね。それで、1年生の担任になつたのでクラスの生徒から他のクラスの生徒から、運動経験者をとにかくスカウトして26人集めました。

ところがまた1年後にはたつた1人しか残らなかつたんです。でも、実績はないんだけど中学での経験者が3人入つてくれた。だからまた未経験者を入れれば何とかなるなと思って、その何とかなる

と思った3年目、昭和54年に県大会の決勝まで行つた。そして翌年に決勝で勝つてインターハイ初出場を果たしたんです。

56年も続けて出ましたが、57年に酒田商業(現酒田光陵)にアベック優勝を許してしまつた。58年にはまた出場して、それから平成23年まで28年連続出場。昭和54年に個人戦に連れていったから、個人

を一緒に見ていた先生が左沢高校の校長になり、私を拾つてくれました。左沢もそれまで男子が県でベスト4、女子がベスト8ぐらいになつていてチームだから、1年目は無理でも2年目はインターハイに行けると思つた。

ところが、左沢に行つてみたら驚いた。劍道部員がほとんど辞めてしまつていたんです。3月25日頃、新聞に人事異動の辞令が載りますよね。それで私が来るといふのを見た左沢の子どもたちが次の日に退部した。女子は12人、男子は8人ぐらいたのかな。それが女の子は誰もいなくてマネージャーだけ、男子は6人だけ残つていた。そのぐらい、隣の学校から見ついて恐い先生だつたんですね。それで、1年生の担任になつたのでクラスの生徒から他のクラスの生徒から、運動経験者をとにかくスカウトして26人集めました。

ところがまた1年後にはたつた1人しか残らなかつたんです。でも、実績はないんだけど中学での経験者が3人入つてくれた。だからまた未経験者を入れれば何とかなるなと思って、その何とかなる

と思った3年目、昭和54年に県大会の決勝まで行つた。そして翌年に決勝で勝つてインターハイ初出場を果たしたんです。

56年も続けて出ましたが、57年に酒田商業(現酒田光陵)にアベック優勝を許してしまつた。58年にはまた出場して、それから平成23年まで28年連続出場。昭和54年に個人戦に連れていったから、個人

を一緒に見ていた先生が左沢高校の校長になり、私を拾つてくれました。左沢もそれまで男子が県でベスト4、女子がベスト8ぐらいになつていてチームだから、1年目は無理でも2年目はインターハイに行けると思つた。

ところがまた1年後にはたつた1人しか残らなかつたんです。でも、実績はないんだけど中学での経験者が3人入つてくれた。だからまた未経験者を入れれば何とかなるなと思って、その何とかなる

と思った3年目、昭和54年に県大会の決勝まで行つた。そして翌年に決勝で勝つてインターハイ初出場を果たしたんです。

56年も続けて出ましたが、57年に酒田商業(現酒田光陵)にアベック優勝を許してしまつた。58年にはまた



2面がゆったり取れる剣道場は、昭和61年に学校が現在地に移ったときに建てられた。斎藤監督がこだわったのは天井の高さ。天井が低いと気合が出ていなくても跳ね返って大きく聞こえてしまうからだという

先ほど話した米田先生の九州学院の剣道も他とは違いますね。先ほど高輪の甲

もあるし、相手のペースにさせないこともできていたはずなのに。  
だから剣道というのは強いだけじゃ勝てないと私は言っている。強くて上手いチームが勝つ、強くて上手い選手が個人優勝するんです。

### 日本一をたぐり寄せた技とケガを防ぐトレーニング

私の指導の基本は中心を割つて面を打ち込む剣道。だからといって小手を打つなとは言わない。小手もあるから面が生きるんだという教えです。とくに裏からこの面を極めた子は、みんな日本一になるんですよ。平成10年のインターハイ決勝の代表戦で修徳高校に勝ったときの面がこれでした。それから突きですね。うちには突きをたくさん練習させるんです。突きの指導も極意がある。中心線に沿つて竹刀をまっすぐ下ろして、剣先を上げながら入つて、通過点のときにドーンと突く。そうするとぶれが少ない。とくに左右のぶれがないんですよ。

いろいろな意見を聞きますが、私はP.I学園の川上（零志）先生が教えた剣道は凄いと思いますね。剣道というのは小竹刀をまっすぐ下ろして、剣先を上げながら入つて、通過点のときにドーンと突く。そうするとぶれが少ない。とくに左右のぶれがないんですよ。

先ほど話した米田先生の九州学院の剣道も他とは違いますね。先ほど高輪の甲

「先生はお前たちと一緒に日本一になりたい」  
それに呼応して、生徒たちが初の日本一を達成してくれたのです。

今年の世界柔道選手権で、井上（康生）監督も面白い言葉を選手にかけていますね。「魂をゆさぶる言葉」だと思います。初日の選手（高藤直寿）には「俺の監督最初の世界チャンピオンになってくれ」、3日目の若い選手（大野将平）には「お前の時代を作れ。それにはまず頂点に立て」と声をかけて試合に送り出したそうです。それで3日まで連続で金メダルを手にすることことができた。私には日本一になるたびにそういう語録があるんですが、うまくいかないときも正直あります。

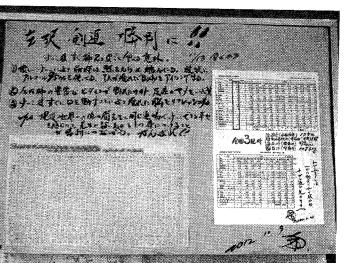
野津の斎藤清内先生には剣道ばかりでなく、女の子の生活の指導から、いろいろ教えていただいた。58年に決勝戦で野津に負けたんだけど、清内さんは「ここで斎藤学に勝たれると俺と同じ2回に並ばれる。あいつに並ばれるのは面白くないから勝て」と選手に言つたそうです。

「先生、思つただけでは日本一になれない」というようなことは言つていませんけど、「日本一になりたい」って言つたことはなかった。

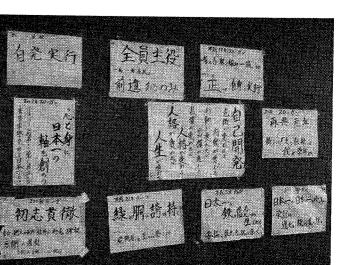
そう言われて、国体前夜のミーティングで選手たちに初めて言いました。



国末杏菜主将をはじめとする3年生は、下級生や中学生に細かくアドバイスをしていた



道場にトレーニングの数値が貼られている。現在の部員のみならず、佐久間助監督や村山千夏さんなど、過去の選手の数値も



毎年掲げられるスローガン。言葉を大切にする監督の姿勢が伝わってくる。2013年のスローガンは「勝負度胸が新しい歴史を創る」

「先生はお前たちと一緒に日本一になりたい」

それに呼応して、生徒たちが初の日本一を達成してくれたのです。

今年の世界柔道選手権で、井上（康生）監督も面白い言葉を選手にかけていますね。「魂をゆさぶる言葉」だと思います。初日の選手（高藤直寿）には「俺の監督最初の世界チャンピオンになってくれ」、3日目の若い選手（大野将平）には「お前の時代を作れ。それにはまず頂点に立て」と声をかけて試合に送り出したそうです。それで3日まで連続で金メダルを手にすることことができた。私には日本一になるたびにそういう語録があるんですが、うまくいかないときも正直あります。

野津の斎藤清内先生には剣道ばかりでなく、女の子の生活の指導から、いろいろ教えていただいた。58年に決勝戦で野津に負けたんだけど、清内さんは「ここで斎藤学に勝たれると俺と同じ2回に並ばれる。あいつに並ばれるのは面白くないから勝て」と選手に言つたそうです。

そんなふうに生徒を激励した。これもまさしく魂を揺さぶる言葉ですね。

九州学院の米田（敏郎）先生は、男子の監督なのによく私のところへ来て話をすらんけど、平成10年など私が先に決勝を戦つて、その後九州学院が男子決勝を度どか何度かあつたんですよ。「私はいつも斎藤先生の後ろに立つて、先生が何か違うことを言つてゐるんじゃないかなって耳をそばだして聞いていたんですよ」と彼は言う。こいつは凄いなと思いましたね。

あとは私も常に言つていて、「一本取つたらどうするか、一本取られたらどうするか。取つたら必ず取り返しに来るんだから、出ばなを打つたり、抜いたりしてそこを取る。逆に一本取られたら、先手で相手に後手を踏ませる」「一本取つたのにこんなに打つて来るのか、苦しい」と思わせて相手がそれに疲れてふっと抜けた瞬間に取る。燕中はそういう取り方がきちんとできています。

試合つて、やっぱり流れを読めるかどうかなんですよ。戦つていて、今流れが自分のものかどうかを見極めること。流れが自分のものでないのに無理するから

一番典型的な例をあげれば、5人が5人勝負させられない。流れの中で1人勝つたらどうするか、1人負けたらどうするか、ということを常に指導して試合をさせているか、ということなんです。

それを教えるためにポジションを私は固定しない。全国大会ではある程度固定して戦うけど、その前の県大会、東北大会、冠大会とかは固定ないです。

あとは私も常に言つていて、「一本取つたらどうするか、一本取られたらどうするか。取つたら必ず取り返しに来るんだから、出ばなを打つたり、抜いたりしてそこを取る。逆に一本取られたら、先手で相手に後手を踏ませる」「一本取つたのにこんなに打つて来るのか、苦しい」と思わせて相手がそれに疲れてふっと抜けた瞬間に取る。燕中はそういう取り方がきちんとできています。

試合つて、やっぱり流れを読めるかどうかなんですよ。戦つていて、今流れが自分のものかどうかを見極めること。流れが自分のものでないのに無理するから

打たれちやう。攻めながら自分の流れ、自分のパターンにできるまで、いかに我慢していくかが個人戦の戦い方です。一方団体戦はポイントゲッターが取らなければならぬから、リスクを背負う。だからボカをしてやらることは必ずある。

それは積み重ねですよね。だから記憶力という能力の低い子は勝てません。その時は分かつて素晴らしい試合をしたのに、それが残っていないから、次に同じ状況になつてもできない。1週間前、1カ月前の大会でやれたのにできないんです。

勝つチーム、勝つ選手というのは、ああ、この流れになつたら取るだろうなって見ていて分かるでしょう。

今年のインターハイも樟南高校との試合で全然うちの流れにならないんです。自分のペースにならないうちにボカをして、やられてしまつた。それはやっぱり記憶力がないんです。そこから逆転してうまく自分のペースに持つて行つた経験

剣道を教えられる優秀な指導者は日本全国にたくさんいます。だけど勝負、試合を教えられる監督はそんなにいない。勝たせられる監督は少ないですね。

見ていてなるほど思うのは、燕中学の堀田（正秀）先生です。うちの大会にも稽古にも来ててくれるけど、彼の指導を見ているとね、違いますよ。剣道を教えて、その上で勝ち方を教えています。

もあるし、相手のペースにさせないこともできていたはずなのに。  
だから剣道というのは強いだけじゃ勝てないと私は言っている。強くて上手いチームが勝つ、強くて上手い選手が個人優勝するんです。

だから剣道も極意がある。中心線に沿つて竹刀をまっすぐ下ろして、剣先を上げながら入つて、通過点のときにドーンと突く。そうするとぶれが少ない。とくに左右のぶれがないんですよ。

いろいろな意見を聞きますが、私はP.I学園の川上（零志）先生が教えた剣道は凄いと思いますね。剣道というのは小竹刀をまっすぐ下ろして、剣先を上げながら入つて、通過点のときにドーンと突く。そうするとぶれが少ない。とくに左右のぶれがないんですよ。

先ほど話した米田先生の九州学院の剣道も他とは違いますね。先ほど高輪の甲

打たれちやう。攻めながら自分の流れ、自分のパターンにできるまで、いかに我慢していくかが個人戦の戦い方です。一方団体戦はポイントゲッターが取らなければならぬから、リスクを背負う。だからボカをしてやらることは必ずある。

それは積み重ねですよね。だから記憶力という能力の低い子は勝てません。その時は分かつて素晴らしい試合をしたのに、それが残っていないから、次に同じ状況になつてもできない。1週間前、1カ月前の大会でやれたのにできないんです。

勝つチーム、勝つ選手というのは、ああ、この流れになつたら取るだろうなって見ていて分かるでしょう。

今年のインターハイも樟南高校との試合で全然うちの流れにならないんです。自分のペースにならないうちにボカをして、やられてしまつた。それはやっぱり記憶力がないんです。そこから逆転してうまく自分のペースに持つて行つた経験

で選手に言つたことある?」と言つた。私はハツと思つた。「普段通りやれば日本一になれる」というようなことは言つていよい。お願いしただけではなれないよ。日本一になりたいって感じなさい」

「先生はお前たちと一緒に日本一になりたい」  
それに呼応して、生徒たちが初の日本一を達成してくれたのです。

今年の世界柔道選手権で、井上（康生）監督も面白い言葉を選手にかけていますね。「魂をゆさぶる言葉」だと思います。初日の選手（高藤直寿）には「俺の監督最初の世界チャンピオンになってくれ」、3日目の若い選手（大野将平）には「お前の時代を作れ。それにはまず頂点に立て」と声をかけて試合に送り出したそうです。それで3日まで連続で金メダルを手にすることことができた。私には日本一になるたびにそういう語録があるんですが、うまくいかないときも正直あります。

野津の斎藤清内先生には剣道ばかりでなく、女の子の生活の指導から、いろいろ教えていただいた。58年に決勝戦で野津に負けたんだけど、清内さんは「ここで斎藤学に勝たれると俺と同じ2回に並ばれる。あいつに並ばれるのは面白くないから勝て」と選手に言つたそうです。

そんなふうに生徒を激励した。これもまさしく魂を揺さぶる言葉ですね。

九州学院の米田（敏郎）先生は、男子の監督なのによく私のところへ来て話をすらんけど、平成10年など私が先に決勝を戦つて、その後九州学院が男子決勝を度どか何度かあつたんですよ。「私はいつも斎藤先生の後ろに立つて、先生が何か違うことを言つてゐるんじゃないかなって耳をそばだして聞いていたんですよ」と彼は言う。こいつは凄いなと思いましたね。

あとは私も常に言つていて、「一本取つたらどうするか、一本取られたらどうするか。取つたら必ず取り返しに来るんだから、出ばなを打つたり、抜いたりしてそこを取る。逆に一本取られたら、先手で相手に後手を踏ませる」「一本取つたのにこんなに打つて来るのか、苦しい」と思わせて相手がそれに疲れてふっと抜けた瞬間に取る。燕中はそういう取り方がきちんとできています。

試合つて、やっぱり流れを読めるかどうかなんですよ。戦つていて、今流れが自分のものかどうかを見極めること。流れが自分のものでないのに無理するから

人勝負させられない。流れの中で1人勝つたらどうするか、1人負けたらどうするか、ということを常に指導して試合をさせているか、ということなんです。

それを教えるためにポジションを私は固定しない。全国大会ではある程度固定して戦うけど、その前の県大会、東北大会、冠大会とかは固定ないです。

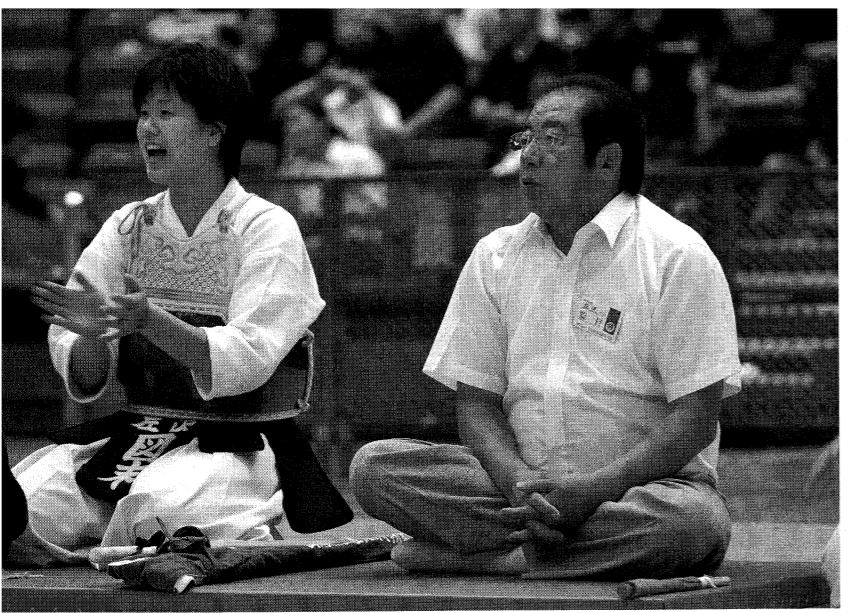
あとは私も常に言つていて、「一本取つたらどうするか、一本取られたらどうするか。取つたら必ず取り返しに来るんだから、出ばなを打つたり、抜いたりしてそこを取る。逆に一本取られたら、先手で相手に後手を踏ませる」「一本取つたのにこんなに打つて来るのか、苦しい」と思わせて相手がそれに疲れてふっと抜けた瞬間に取る。燕中はそういう取り方がきちんとできています。

試合つて、やっぱり流れを読めるかどうかなんですよ。戦つていて、今流れが自分のものかどうかを見極めること。流れが自分のものでないのに無理するから

人勝負させられない。流れの中で1人勝つたらどうするか、1人負けたらどうするか、ということを常に指導して試合をさせているか、ということなんです。

それを教えるためにポジションを私は固定しない。全国大会ではある程度固定して戦うけど、その後九州学院が男子決勝を度どか何度かあつたんですよ。「私はいつも斎藤先生の後ろに立つて、先生が何か違うことを言つてゐるんじゃないかなって耳をそばだして聞いていたんですよ」と彼は言う。こいつは凄いなと思いましたね。

あとは私も常に言つていて、「一本取つたらどうするか、一本取られたらどうするか。取つたら必ず取り返しに来るんだから、出ばなを打つたり、抜いたりしてそこを取る。逆に一本取られたら、先



今年の玉龍旗大会はかつて頂点を争った阿蘇中央を5人抜きで下すも、4回戦敗退。  
インターハイは予選リーグで樟南に敗れた



暮れゆく窓の外には月山の雄姿が。岐阜県から来たという1年生部員はこの山の名前をまだ知らなかった



恐くてただかしこまつて監督の話を聞く、という雰囲気ではない。稽古中には笑顔も見られた。  
見学して「楽しそうだから」と入部して来る部員も

朝はトレーニングか、今は週末に大会なので基本と地稽古、周り稽古をして、放課後は主に試合稽古。来週になつたら当分トレーニングをさせます。トレーニングは最初に7分間走といつて1、2とかけ声を懸けながら一緒に走る。そのあと3分間はフリーで走って、さらに20mダッシュを10本から15本ぐらい。あとは自主トレでウェイトなどを。ベンチプレスをする者、スクワットをする者、腹筋、背筋する者などそれです。

うちの練習の特徴は、規格でやる部分とフリーでやる部分があることですね。

大学へ行くと細々とは教えてくれないから、自分で考えてやらなくちゃいけない。その練習をしているというわけではないんですけれど。

## 寮生活で学んだものが 大学、社会人となつて活きてる

野津の斎藤清内先生を見習つて寮を始めました。昭和55年に初めて団体でインターハイに出たときに、野津高校にお世話になりました。さきほど話した2年目に1人だけ残つた子が短大に進んで剣道部に入つたのですが、その子も連れて行つた。すると帰つてきてから彼女が「先生、私寮監するから町内に寮を探してください。そこから私は短大に通うから」と言う。それで探したのが初めての寮です。彼女は2年間寮監をしてくれました。

その後、手狭になつたなどの理由で二カ所ほど別のところに移りましたが、我が家を建てることになつて寮も作りました。昭和61年からです。今は部員が9人しかいなくて、プラス中学生がいるので12人。一番多かったのは10年ぐらい前で22人いた。今は剣道部は全員寮に入っています。歴史をたどると、女子は野津高校が勝つた(昭和50年)あたりまで遡つても、優勝校は全部寮生活しているんです。全員が寮でないとところもありますが、自宅通学だけで勝つたチームはないんですよ。

寮で生活するメリット? まず親のあすからね。大学の先生方にもそういう評価をいたしています。

## 日本一になればいい

### 大学、社会人になつてから

最後に勝てる子というのは、心ですね。やっぱり心の勝負。心の弱い子はやっぱり勝てないね。

日体大3年になつた志田(恵美)といふ子がいる。彼女が今年の3月に手紙をよこしたんです。2年生からレギュラーにも入つたんだけど、「もっと強くなりたい。心正しくしないと技術も伸びないんですね、今実感として感じています」と書いてきた。それに気づいただけで、生活も変わります。日常の生活からまたステップアップしていきます。

私はインターハイ、全国選抜、国体(単独チーム)で3回ずつ優勝しているから、とくに最近は必ず勝たなくてはならないとは思つてはいません。卒業後も成長する左沢剣道というのを売りにしているんです。

もちろん日本一を目指すと子どもたちには言う。日本一を目指しますけど、なれば最悪最低なのがといつたら、全然そんなことではない。左沢高校で日本一になれない先輩がみんなダメな先輩かというと、そうじやない。高校はあくまでも過程です。高校で勝てなくても大學で、社会人で日本一になればいい。よく例あげるのは小林弓子。栃木県で今も教員として活躍しているけど、村山千

すからね。大学の先生方にもそういう評価をいたしています。

夏らの二つ下で高校での実績はインター

ハイの早い段階で負けていますが、筑波大へ行ってインカレ団体も個人も取つた。卒業後も本当に進化し続けるんです。

卒業生で今年30を過ぎて全日本女子に出た者が3人います。村山千夏と新潟の相場しのぶ、青森の安田麻衣。20代は佐久間陽子と鈴木愛梨の2人。大学卒業しても剣道を続けて、指導者になつたり警察官になつたりしてやつていて。そういう子を育てるのが高校監督の役割だと思つているんですよ、私は。

柔道などで暴力問題が出たでしよう。他の競技スポーツもそうですが、全国大会に出れるか出れないかのはざまにい

る監督が暴力をふるうことが多いですね。全国を取つたレベルの人間はまず殴りません。みんな手を変え品を変え、苦労しながら指導しています。だから、実績を残しているのに生徒に手を出している人を見ると、本当にがつかりします。

**一番気にしているのは  
剣道人口を減らさないこと**

いつまでやるか? 井上公義先生(八代東高校)を超えてやろうと思つています。井上先生は70歳くらいまでやつていたかな。P.Lの川上先生も70を越えて一昨年ぐらいまで監督席に座つていてしょう。

今一番私が気にしているのは剣道人口の問題です。増やすのは不可能だろうから、いかに現状維持していくかというこ

とで。もちろんまだ日本一の選手を育たいんだけど、それ以上に人口を減らさないため、剣道を古武道にしないために努力したい。たとえば鳥取県の女子は、インターハイ予選は5校だけど、選抜予選は5人揃うところがなくて2校でやつていると聞きました。それが現状です。

そのために何をすべきか。私一人ではもちろんできないから、左沢杯という大会を作つて長年やつてきて、村山千夏杯、佐久間陽子杯と名づけた個人戦もやって、中学生を盛り上げてやろうとしています。村山千夏杯で頑張つたという思いを持つて、高校でも頑張つてほしいなと。

剣道連盟はもちろんですが、実績のある先生方には自分のところが勝つことばかりでなく、そういうところに目を向けてほしいと思いますし、武道具業界の人にも、剣道日本などの雑誌にも考えて欲しいことはあります。そんなふうにそれぞれの立場から考えていいないと、剣道は本当にたれてしまふと思うんですよ。

あと今思うことは……教え子たちが私は斎藤学の弟子ですといって、社会人となつて活躍して欲しい、剣道を続けて欲しい。それだけですね。そういう先輩がたくさんいるんだから、高校生たちをそれに続く選手にしたい。そのためにはやっぱり進路をきちっとしてあげなくてはいけない。そのためにはそれなりの実績も作つてあげなければいけない。今日指していることはそういうことです。最終的には子どもたちの幸せですね。

りがたみがわかる。自分のことは自分でやらなければならぬ、さらに自分のことだけではなくほかの人の分もやつてあげなければいけない。食事当番、洗濯当番、掃除当番、すべてそうです。すると親が中学までこんな大変なことをやつてきてくれていたということに気がつくんです。それが一番。

それと、同じ屋根の下で寝食をともにすることで、つねに喜怒哀樂も一緒にいる。寮では我慢するときは我慢するけど、泣くときはやはり泣く。それをみんなが見ている。そういう感情を理解し合いながら、助けるところは助け、激励し合い、お互いに切磋琢磨するというチームワークが生まれるんです。

女の子は、えこひいきをしたら絶対ダメです。つねに平等にしてやることが必要です。でも頑張らない子を平等に扱つたらそれは不平等だ、ということもつねに話しています。稽古もして、掃除も後片付けも先を争つてやつてこそはじめて平等に扱う。サボつている子まで平等に扱うこととはしません。

自分の評価は他人が決めるもの。だから、あまりいいことではないのは分かっています。歴史をたどると、女子は野津高校が勝つた(昭和50年)あたりまで遡つても、優勝校は全部寮生活しているんです。全員が寮でないとところもありますが、自分を生むためにも、言いたいことは言つていけど、私だけがそんな評価をしているのではない、ということを具体的に示してやらないと、親は納得しないようになつてきました。

だから何か問題があつて指導したら、こういうことで厳しく指導しましたと剣道部通信のメールで報告するんです。保護者全員と共に理解が必要だから、名前を出さなくても、全員に報告します。わかる親からは逆に感謝されます。

競技実績として結果はここ5年ほど残していません。大学へ行つてみんな不思議がられます。「なんでそんなことできてるの、気づくの?」って。だからどこで大学行つてもキャプテンになる子が多い。気がきくし、リーダーシップを發揮します。

これは本人と保護者に見せます。親は自分の子どもは可愛いし、立派だと思つているから、そうではないよとその子の親には教えてやる。先生が勝手に好き嫌いでやつてると思つてはいる親もいるから、データとして見せてあげる。練習試合や公式戦の個人の勝率、体力の数値なども全部データを見せます。お互いに信頼関係を生むためにも、言いたいことは言つていいけど、私だけがそんな評価をしているのではない、ということを具体的に示してやらないと、親は納得しないようになつてきました。

これは本人と保護者に見せます。親は自分の子どもは可愛いし、立派だと思つているから、そうではないよとその子の親には教えてやる。先生が勝手に好き嫌いでやつてると思つてはいる親もいるから、データとして見せてあげる。練習試合や公式戦の個人の勝率、体力の数値なども全部データを見せます。お互いに信頼関係を生むためにも、言いたいことは言つていいけど、私だけがそんな評価をしているのではない、ということを具体的に示してやらないと、親は納得しないようになつてきました。

だから何か問題があつて指導したら、こういうことで厳しく指導しましたと剣道部通信のメールで報告するんです。保護者全員と共に理解が必要だから、名前を出さなくても、全員に報告します。わかる親からは逆に感謝されます。

競技実績として結果はここ5年ほど残していません。大学へ行つてみんな不思議がられます。「なんでそんなことできてるの、気づくの?」って。だからどこで大学行つてもキャプテンになる子が多い。気がきくし、リーダーシップを發揮します。

い子には票が集まつてゐるでしょう。たとえば3年生のキヤブテンの岡末(香菜)が1年生の時は、こんなに悪い。入ったばかりの6月だからそれは仕方ない。それが去年、今年とこんなに良くなつていくんです。